

平素より宇治徳洲会病院に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

本年7月より宇治徳洲会病院肝胆膵外科に着任し、4ヶ月が経過しました。

着任早々より多くの肝胆膵外科手術に携わらせていただいております、ご紹介いただきました先生には深く感謝しております。今後、地域の肝胆膵外科基幹病院として、最高水準の肝胆膵外科医療を行なっていく所存です。これから肝胆膵疾患を疑う患者様がおられましたら切除非切除に関わらずご紹介いただけますと幸いです。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

肝胆膵外科部長
野見武男



野見Dr. 資格情報

日本外科学会専門医・指導医	日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会専門医・指導医	消化器がん外科治療認定医
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医	臨床研修指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医	OSCE 評価者認定
日本消化器病学会専門医	緩和ケア研修会修了

Kan Tan Sui

今月の症例

肝細胞癌

症例は70代女性。

慢性B型肝炎を背景とする肝細胞癌です。S8からS4頭側を占拠する10cm大の大型肝癌(図1)で、拡大S8亜区域切除術を施行しました。手術時間4時間45分で、出血量は300ml、輸血は行いませんでした。

術後経過は良好で、術後13日目に退院されました。

本症例のように大型腫瘍においては大量出血の危惧があり、丁寧な止血操作が必須です。

今後は定期的なCT検査で再発をチェックするとともに、消化器内科にてB型肝炎に対する治療を行なっていきます。

図1



裏面へつづく

腹腔鏡下肝切除

近年、大腸や胃の切除はほとんどが腹腔鏡で行われるようになりました。肝臓に関しては、一部の専門施設で腹腔鏡下に切除が行われています。開腹肝切除は傷が特に大きい(図2)ことが特徴でしたが、腹腔鏡ですと、ほとんどわからないくらいになります(図3)。また、肝切除は出血が問題になることがあります。現在は100ml以下で手術可能となっています。

今後、益々、腹腔鏡下に肝切除を行う患者様が多くなると予想されます。

【図2】開腹肝切除の創部



【図3】腹腔鏡下肝切除の創部



＼ 切除跡が小さい！ /

腹腔鏡下肝切除 出血量推移

